

今、わたしは

森 茂雄

大内山下部落に「二十日会」なる青年(?)のグループがあります。「会」の目的は会員相互の親睦である。会員は今のところ十一名、この度、二回目の会長役が回ってきた。この「会」の発足は十年前である。近所の棟上げで一杯やりながら隣に座っていた同級生に、近頃は、同じ部落の者でも、道で会ってもあまり話をせぬようになったのオ。どねエーきアのオ、せめて挨拶

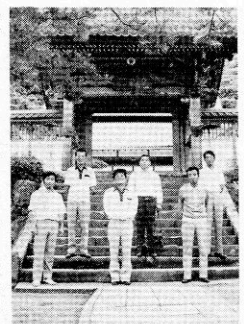


ぐらしいするようにする方法はないかのオ。」と、日頃から考えていたことが飲んだ勢いで口から出てしまった。そこで当時、四十歳以下の人を対象に趣旨を説明し、集会所に集まってもらった。皆も内心相通じるものがあったと見えて心よく協力してくれた。そこで、月に一回集まっているいろいろなことを話合うことになった。まず「会」に名前を付けようと言うことになり、次回の宿題となった。皆いろいろ名前を考えてきた。かなりおもしろい名前があったと思うがなにせ十年前も前のことであるので記憶がない。結局、毎月二十日に集まるのだから「二十日会」にしようと言うことになった。

た。会長は言い出しつべの私にやれということになった。そこで会報第一号を出した。しかし、第二号はまだ目の目をみていない。一号がどのような内容であったか資料がないので分らないが記憶にある。その頃は、農業後継者として意欲に燃えていたので、山口の農業試験場に行き、場内を案内してもらったり農業問題について意見交換をした。また、毎年一回は旅行等の行事をしてきた。もちろん、妻や子供達も一緒である。ぶどう狩り、マスぶりや萩の田床山にも行った。その当時は、小さな子供もいたので奥さんは大変であった。ミルクやおしめを持って行く人もいた。



夏には、子供会と一緒に海に行っている。前日、農協や小学



校にテントを借りに行き、朝、四時に集合し場所を取りに行かなければならない。この繰り返しもう何年も続いている。しかし、これも子供のためと頑張っている。本音は皆と昼の一杯が楽しみで……。コミュニティとはノミニティだと言う人がいるが全くそのとおりだと思う。

この十年間を振り返ってみると、会員がそれぞれの立場で協力して「二十日会」はうまくいっていると思う。今年は十周年記念として何かやりたいと考えている。

最近、町内に青年が組織する会がかなりあり、いろいろな活動をしていると聞いている。この方々と交流をしてみたいと思っているし、また、県内にはもっと多くのグループがあるのでこれとも交流をとも考えている。

この会が十年もやってこれたのは、会員の努力もさることながら、その家族や部落の皆さんの協力のお陰と大変感謝しています。

第一回 長門地区消防操法大会 4月19日(日)

第一回長門地区消防操法大会が四月十九日(日)、油谷町総合グラウンドにおいて開催されました。

消防団応急操法の部では、管内より二十チームが参加しました。日置町からは第一分団より、大半が新入団員で構成された二チームが出場しました。結果は、六位(四十三秒)と十四位(四十七秒)でした。(優勝は油谷町久津分団の三十八秒)

また、婦人消火水バケツの部では管内十チームが参加し、日置町より出場した小野地チーム(依道スミ子、藤嶋良子、磯部芳子、野中梅子、木村純子、藤嶋孝子、藤川恭子)が見事四十一秒で優勝しました。黄波戸チームは八位(六十六秒)でした。



優勝した小野地チームのみなさん